

日本原水協活動交流ニュース

発行：原水爆禁止日本協議会 電話:03 - 5842 - 6031 2015年
FAX:03 - 5842 - 6033 Eメール：antiatom55@hotmail.com 12月4日発行

被爆者訪問を計画し、結びつきを強めよう

★被爆70年をふまえ、益々大切となる被爆者援護の諸活動。被爆者の訪問の計画が、新たに各地で決まり始めています。被爆者の会に申入れ、被爆者の訪問を具体化し、結びつきを強めていきましょう。

被爆者の会の会長らと相談し、初の訪問を計画中！

遠入健夫事務局長（大分）

被爆者の会とは原水禁との関係が密で話ができませんでした。6、7年前3代前の会長から話ができるようになった。特に平和行進を昨年から歩いてみて、「本当に歩くんだな」と感心。原水禁は車で役場まで行って募金をもらうというスタイルだったためです。

こうしたなかで、来週会長と事務局長とお会いし、訪問できる方を名簿化して、ちひろカレンダーを持って訪問することになり、大変喜ばれています。

被爆者の会は高齢化が進み、昨年からは総会が開けなくなっています。これまでの総会には県内の国会議員の秘書が全員参加。県原水協は5年前頃から総会に参加し、平和運動センターと隔年で挨拶をおこなってきました。新会長は非常に積極的で、「世界大会に参加したい」と言ってくれています。

今年の平和行進には会長、副会長、事務局長がそれぞれの居住地で参加。会長は3日間全部参加して、労働組合の青年にずっと歩きながら被爆体験を話してくれました。「初めて被爆者と話した」と感想文に書いていました。被爆体験を聞き取ることも、民青のみなさんと進めたいと考えています。

年末にかけて、ちひろカレンダーをもって被爆者訪問を計画

梅林光生事務局長（奈良）

2005年には県被団協が解散。こうした中で被爆2世でもある県事務局長の梅林さんは、毎年般若寺で開催されてきた「平和の塔のつどい」のとりくみを通じてつながった被爆者23人のみなさんと連絡をとりあえることに。昨年同様今年も年末活動の一つとして、ちひろカレンダーをもってお見舞い活動をおこなうよう計画中です。

これから若い世代のみなさんと訪問しようと声をかけようと考えています。奈良では、今たたかわれているノーモア・ヒバクシャ訴訟原告もお見えになるため、支援の活動も行うようになっています。

